

舞鶴市議会 活動報告

- 「図書館」に関する議員研修会
(令和4年4月14日開催)

舞鶴市議会 議員研修会（図書館）

実施日：令和4年4月21日

議長挨拶

【講義テーマ】「図書館が日本を救う-公共図書館の可能性」【研修目的】舞鶴市では現在、「舞鶴市図書館協議会」が設置され、今後の図書館行政の方向性を審議され市民の方々も注目度が高いことから、議会として先んじて研修するもの。【講師】元浦安市立図書館長 常世田 良氏
元立命館大学教授 (とこよだ りょう)

常世田先生による研修会

【講義内容】

◎まずは基本から、公共図書館とは？

・本を貸すところ？ ・受験生の学習室？ ・社会の癒しの空間？

*図書館の本質→情報提供とネットワーク 自立支援の知的インフラ◎我が国における「自己判断自己責任」型社会への移行、格差社会への急激な移行*行政ばかりか個人も「自己判断自己責任」を迫られつつある「格差」の元凶は「情報の不公平」 図書館の利用は平等である

◎市民の情報環境の変化と従来の情報システムの限界

・日本人は重要な「判断」を行うための情報を手に入れていない？*図書館には「情報」があり詳しくは図書館司書に相談する

舞鶴市議会 議員研修会（図書館）

実施日：令和4年4月21日

【研修後の所感】 議員全員に研修後の報告書を提出依頼し沢山の意見を聴取（抜粋）

◎図書館とは「借り」「学習」「憩い」と思いがちだが、公共図書館の本質は「情報提供とネットワーク」=大人のための図書館であることが理解できた。

◎図書館に求めるべきは「自立支援」に繋がる専門的な情報の提供であり、「課題解決型サービス」が地域の振興・経済の活性化に繋がる。

◎就業支援等大人が活用することが主であり、コロナ禍であるからこそ地域の課題解決に向けた手法として、今後図書館に求められる役割は大きい。

◎例え話の、近くの図書館を利用すれば情報の蛇口があり、その膨大な情報は全国の大きな図書館（貯水池）と繋がっていて、蛇口をひねるのは図書館員。

先進事例をもとに講演



質疑応答も実施

【研修後の所感】

◎舞鶴市の現状は一番利用すれば良い30歳代～50歳代の利用者数が少ないがそれは利用の方法が伝わっていないことも理解できた。

◎交通弱者や学生等は図書館へのアクセス方法が限定的であり、近くの分館や公民館との連携等、機能強化が必要と感じた。

◎地方にこそ高度な情報提供型図書館が必要とされている。

◎舞鶴市で議論されている「高度なレファレンス機能」「就業支援を含めた課題解決型図書館」という抽象的な表現が研修で具体的に理解できた。